

治安・安全情報（詐欺電話にご注意を！）【メールマガジン 2021年5月号から抜粋】

最近、「詐欺と思われる電話がかかってきた」という相談が当館に多く寄せられています。幸い、実害に至ったケースには接していませんが、相談者の多くが「最初は全く怪しまなかった」と語っており、中には「お金を振り込む寸前まで詐欺だと思わなかった」というケースもあります。

以下、代表的な事例と特徴点を紹介しますので、ご参考にいただければ幸いです。

【事例1】

午後2時30分ころ、マスターカードの職員を名乗る男性から、「あなたの口座から1,500ドルが米国に送金予定となっているが、心当たりはあるか」と携帯に電話があり、ないと答えたところ、「あなたの口座が乗っ取られている可能性がある。送金をブロックするために指定のアプリ（TeamViewer）をスマートフォンにインストールしてほしい」と言われた。インドなまりの英語を話すその男性に不信感を覚え、「私から改めてカード会社に電話し確認したい」と言うと、男性は「それなら上司に電話を代わる。その必要はない」と電話を切らせようとしなかった。

【特徴点等】

- 詐欺犯は会話中、「カード番号を不用意に相手に教えたりしないように」などと、信憑性を高めるようなアドバイスを行っています。
- 詐欺犯が指定してきた「TeamViewer」はスマートフォンの遠隔操作を可能にするアプリで、相談者がこれをインストールすることで、スマホ内の個人情報抜き取られる可能性があるものです。
- 詐欺犯は「上司に代わる」としたほかにも、「急ぎ対策を行わないと間に合わない」などと言っており、相談者に考える余裕を与えないようにしていました。
- 相談者は電話を切る際に詐欺犯から会社の電話番号を教示されましたが、この番号には架電せずに、自身で調べた番号に電話して詐欺であることを確認しました。

【事例2】

午後1時ころ、NSW Serviceの職員を名乗る男性から携帯に電話があり、「あなたの銀行口座情報を含む様々な個人情報が漏れている。安全のためにあなたの口座のお金を一時的に州が管理する口座に移す必要がある」と言われたため、男性の指示に従い、ATMから預金を全額引き出した。続けて、男性から送金先の口座情報をWhatsAppにより受信し、ATMから入金しようとしたところ、同口座が中国人のような名義となっていることに気づき、不審に思って入金しなかった。

【特徴点等】

- 政府職員がお金の管理に関する指示をすることはなく、事例のようなケースは詐欺を疑

ってください。

○ここでも詐欺犯は最初の電話から入金まで一度も電話を切断することなく、相談者に考える余地を与えませんでした。詐欺犯は確実に入金させるため、電話を切断することなくATMに誘導し、操作方法の説明までを行いました。

○事例のように連絡手段として WhatsApp などの SNS を指定された場合、詐欺である可能性が高いです。

○相談者が入金せずに電話を切断したところ、後に警察官を名乗る男性から相談者に、「政府の指示に従わなかったため、逮捕する」との電話がありました。このように詐欺犯は威迫を用いて指示に従わせようとする場合があります。

※万一被害に遭った場合、すぐに「131-444（緊急時以外の警察通報ダイヤル）」に電話し、警察に被害を届けてください。

※その他、以下のウェブサイトにおいて、最新の詐欺手口の紹介や被害報告を受け付けていますので、ご参考にしていただければ幸いです。

●スキヤム・ウォッチ

<https://www.scamwatch.gov.au/>

●オーストラリア・サイバー・セキュリティ・センター

<https://www.cyber.gov.au/>